

子供入院…家族、泊まれるよ

毎日(9)

12.1.6(6)

小児がんなど重い病気で長期の入院が必要な子供の家族向けに、付き添いのための宿泊施設「ファミリーハウス」が道内で初めて、札幌市北区の北大医学部付属病院近くに建設される。北海道電力(本社・同市)が今年5月の創立50周年記念事業として手がけ、北大に寄贈する。10月に着工し、来年3月に完成予定。小児慢性疾患の子供を抱える家族の経済的、精神的な負担を少しでも軽減しようと北電が計画した。子供が治療のために自宅から遠隔地の大学病院などに入院する場合、付き添いの家族は病院の近くに宿泊場所を確保しなければならず、大きな負担になっていた

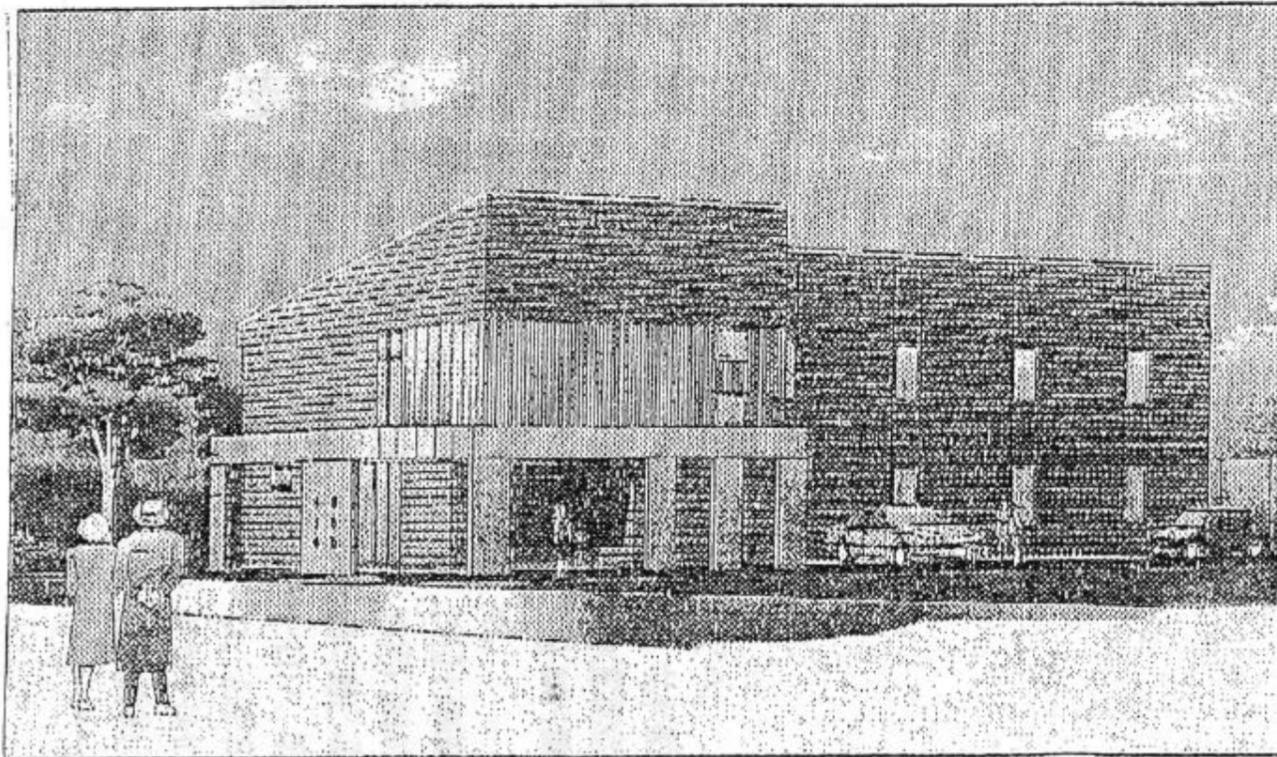
付き添い用の宿泊施設

北電が北大に寄贈

病院側が周辺のホテルなど宿泊施設を紹介してきたが、最近では東京などに同様のファミリーハウスが誕生。低料金で滞在できるほか、同じような病気の子供を抱える家族同士が励まし合える場になっている。小児がんの子供とその家族への支援が広がり、道内でも建設を求める声が高まっていた。

北電が建設するファミリーハウスは鉄骨2階建て延べ約530平方メートルの広さ。バス、トイレ、台所、テレビ、冷蔵庫などを備えた10畳の洋室8室のほか、談話室なども設ける。建設費は約1億3500万円。

【野本みどり】



北電が来年3月、北大に寄贈するファミリーハウスの完成予想図